

平成 19 年 度

事 業 報 告 書

平成20年6月12日

財団法人 国際科学技術財団

1 2007年(第23回)日本国際賞関連事業

(1)第23回日本国際賞週間行事の実施(平成19年4月16日～4月22日)

4月19日、国立劇場において、天皇皇后両陛下御臨席のもと来賓多数を招待して、第23回日本国際賞の授賞式を挙行了した。

第23回の受賞者はアルベール・フェール博士(フランス)とペーター・グリュンバルク博士(ドイツ)(基礎研究が発信する革新的デバイス分野)、ピーター・ショウ・アシュトン博士(英国)(共生の科学と技術分野)であった。

この授賞式を中心として4月16日から4月22日までを日本国際賞週間とし、各種行事を実施した。

(2)広報活動(平成19年4月16日～20日)

日本国際賞に関する周知を図るため、日本国際賞週間中に合同記者会見、個別インタビュー等を実施し、報道関係機関に働きかけて積極的な広報活動を行った。

2 2008年(第24回)日本国際賞関連事業

(1)2008年(第24回)日本国際賞受賞者の審査(平成19年4月～11月)

熊谷信昭氏を委員長とする2008年(第24回)日本国際賞審査委員会の委員17名を委嘱し、内外から寄せられた受賞候補者推薦書714件(重複を除くと430件)に対する審査を依頼した。

同委員会は慎重審査の結果、平成19年11月14日、2008年(第24回)日本国際賞受賞候補者として情報の理論と技術分野から2名及びゲノム・遺伝医学分野から1名の計3名を推挙し、理事会はこれを受けて平成19年11月15日、評議員会の同意を得た上で、ヴィントン・サーフ博士(アメリカ合衆国)とロバート・カーン博士(アメリカ合衆国)(情報の理論と技術分野)及びビクター・マキューズィック博士(アメリカ合衆国)(ゲノム・遺伝医学分野)の3名を2008年(第24回)日本国際賞受賞者と決定した。

(2)2008年(第24回)日本国際賞受賞者決定の記者発表(平成20年1月17日)

2008年(第24回)日本国際賞受賞者発表のためのニュースリリースを作成し、日本外国特派員協会において国内・国外のプレス関係者に対して受賞者の発表を行った。

また、海外パブリシティにおいては、共同通信PRWire社に依頼し、海外広報の強化を図るとともに財団ホームページでも同日公開を行い、国内外の広報を幅広く行った。

3 2009年(第25回)日本国際賞関連事業

(1)2009年(第25回)日本国際賞授賞対象分野の選定と決定(平成19年7月～11月)

領域Ⅰの委員長を西岡秀三氏、領域Ⅱの委員長を浅島誠氏とする委員10名から成る分野検討委員会を設置し、4ヶ月に亘り鋭意検討を行い、平成19年11月15日、理事会・評議員会を招集し、審議を行った結果、2009年(第25回)日本国際賞対象分野として、委員会での結論どおり「自然と共生する持続可能な技術社会形成」と「医学・工学の融合における疾患への技術の展開」の2分野を正式に決定した。

(2)2009年(第25回)日本国際賞授賞対象分野発表(平成19年11月～12月)

2009年(第25回)日本国際賞授賞対象分野について、共同通信PRWire社を通じて、各メディアに発表すると共に財団ホームページにおいても公開した。

また、国内の両分野に関連する学会、更に12月には国内の大学等に対しても周知を図った。

(3)2009年(第25回)日本国際賞受賞候補者推薦書の送付(平成19年11月)

推薦依頼状10,584通を平成20年2月末日を締切日として内外の科学者(推薦有資格者)に送付した。

なお、推薦の依頼と同時に、国際科学技術財団専門分野表記入依頼を併せて行った。

4 日本国際賞の発展に関する事業

日本国際賞委員会の議論を参考に、審査方法の一層の充実を検討するため日本国際賞審査検討委員会を平成19年9月、10月、11月及び12月の4回開催し、議論を行い、その内容を平成20年3月13日の理事会・評議員会に報告し、2010年(第26回)日本国際賞授賞者の審査から適用する旨、決定された。

(平成19年6月～平成20年3月)

5 科学技術に関する調査研究

(1)分野別科学者等の調査(平成19年11月)

分野検討委員会委員に協力を依頼し、2009年(第25回)日本国際賞授賞対象2分野に関わる内外の科学技術者リスト等について調査を行った。

(2)国際科学技術財団専門分野表データ整備(平成19年12月～平成20年2月)

2009年(第25回)日本国際賞推薦依頼を行った国内外の推薦依頼者より、国際科学技術財団専門分野表記入回答のあった有識者のデータ整備を行った。

6 科学技術の普及啓発を図るための事業

(1)記念講演会の開催(平成19年4月18日)

第23回受賞者による記念講演会を東京大手町の経団連会館「経団連ホール」において開催した。演題はペーター・グリュンベルグ博士が“磁性体積層構造におけるスピントロニクス現象”、アルベール・フェール博士が“スピントロニクスの起源、展開、そして未来”、ピーター・ショウ・アシュトン博士が“熱帯林の半世紀 ～その危機と神秘；生物多様性の持続的利用を求めて～”であった。

(2)学術懇談会の開催(平成19年4月18日)

第23回受賞者を中心として、それぞれの分野で日本の第一線研究者に出席を依頼し、学術懇談会を開催した。(於：東京・経団連会館)

- 1 基礎研究が発信する革新的デバイス分野
座長：佐藤 勝昭 (東京農工大学理事・教育担当副学長)
- 2 共生の科学と技術分野
座長：中静 透 (東北大学大学院生命科学研究科教授)

(3) 第32回ストックホルム国際青年科学セミナー(SIYSS)への派遣事業 (平成19年12月4日～10日)
スウェーデン青年科学者連盟より第32回ストックホルム国際青年科学セミナーへの参加依頼があり、大学の学長からの推薦を受けた、第24回日本国際賞授賞対象分野を専攻する学生について選考を行った結果、上智大学の中田有貴、及び東京大学の中尾宏規の2名を選定し、両名を派遣した。

(4) やさしい科学技術セミナーの開催 (平成19年5月～平成20年3月)

一般の方を対象とした「やさしい科学技術セミナー」は下記の先生を講師として、10回開催した。

172回	木村 良晴	京都工芸繊維大学繊維科学センター長
173回	二階堂 雅人	東京工業大学大学院生命理工学研究科助手
174回	桑名 利津子	摂南大学薬学部薬学科助手
175回	中村 秀仁	(独)放射線医学総合研究所基盤技術センター博士研究員
176回	黒川 治久	(独)産業技術総合研究所知能システム研究部門グループ長
177回	小泉 尚嗣	(独)産業技術総合研究所地質情報研究部門グループ長
178回	佐藤 井一	兵庫県立大学大学院物質理学研究科助手
179回	上田 泰己	(独)理化学研究所発生・再生科学総合研究センターチームリーダー
180回	柿菌 俊英	広島大学大学院先端物質科学研究科准教授
181回	木下 正高	(独)海洋研究開発機構地球内部変動研究センターグループリーダー

(5) 受賞者及び各種委員との連携を密にし、財団のネットワークづくりを推進した。

7 科学技術研究奨励に関する事業

平成19年度研究助成事業の実施について (平成19年5月～平成19年12月)

研究助成選考委員会委員13名に、応募総数34件に対する選考を依頼した。

その結果、研究助成対象者が11月15日の役員会で決定し、12月11日、ホテルニューオータニにおいて贈呈式が行われた。

研究助成対象者

[情報通信の理論と技術]

北島 佐知子	お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科 准教授
仲村 泰明	愛媛大学大学院理工学研究科 助教
縫田 光司	(独)産業技術総合研究所情報セキュリティ研究センター 研究員
萬代 雅希	静岡大学情報学部情報科学科 助教
平野 拓一	東京工業大学理工学研究科 助教

本多 克宏	大阪府立大学大学院工学研究科 助教
松浦 基晴	電気通信大学電気通信学部情報通信工学科 助教
山下 和彦	東京医療保健大学医療保健学部医療情報学科 准教授
山中 高夫	上智大学理工学部電気電子工学科 講師
廖 洪恩	東京大学大学院工学系研究科 准教授

[ゲノム・遺伝医学]

加藤 武馬	藤田保健衛生大学大学院医学研究科 大学院生
喜納 克仁	徳島文理大学香川薬学部薬科学科 講師
京極 千恵子	神戸大学大学院医学系研究科 学生(研究員)
佐藤 隆史	群馬大学生体調節研究所細胞構造分野 助教
鈴木 淳史	九州大学生体防衛医学研究所 SSP学術研究員(特任准教授)
田邊 一仁	京都大学大学院工学研究科 助教
新堀 哲也	東北大学病院遺伝科 医員
水口 剛	横浜市立大学大学院医学研究科 助教

8 財団の基盤強化に関する事業

- (1) 低金利で収入確保が厳しい状況下、経費支出の効率化を徹底して行った。
- (2) 寄付募集活動を行い、ナショナルモータ松葉会から1億円、松下電器産業㈱から1,200万円の寄付受け入れを行った。